

第10回 ロボット大賞 募集要項

2022年4月11日

第10回ロボット大賞 運営事務局

1. 事業の目的

情報技術、エレクトロニクス、機械工学、素材技術など我が国産業の強みと言える幅広い要素技術を統合することによって生み出される次世代のロボット技術(RT)は、我が国に科学技術の更なる発展をもたらすとともに、ものづくり分野はもとより、サービス分野、ICT利活用分野、介護・医療・健康分野、社会インフラ・災害対応・消防分野、農林水産業・食品産業分野などの幅広い分野における利活用が進むことにより、生産性の飛躍的向上、単純な繰り返し作業や過重な労働等からの解放、急速な少子高齢化が引き起こす労働力不足の解消や、安全・安心な社会の実現に貢献すると期待されます。

このため、将来の市場創出への貢献度や期待度が高いと考えられるロボット及びロボットに関連するビジネス・社会実装、ロボット応用システム、要素技術、高度ICT基盤技術、研究開発、人材育成(以下、「ロボット等」という。)を表彰することにより、ロボット技術の開発と事業化を促進し、技術革新と用途拡大を加速する、社会に役立つロボットに対する国民の認知度を高め、ロボットの需要を喚起するとともに、全国から広く募ることで我が国のロボット技術の動向を把握することを目的とします。

2. 事業の名称

日本名:第10回 ロボット大賞

英語名:The 10th Robot Award

3. 共催・協力

<共催> 経済産業省(幹事)、一般社団法人日本機械工業連合会(幹事)

総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省

<協力>

独立行政法人中小企業基盤整備機構、国立研究開発法人科学技術振興機構、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所、国立研究開発法人水産研究・教育機構、国立研究開発法人日本医療研究開発機構、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、公益社団法人精密工学会、公益社団法人日本食品科学工学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、公

益社団法人日本べんとう振興協会、公益社団法人日本リハビリテーション医学会、公益財団法人テクノエイド協会、公益財団法人医療機器センター、一般社団法人 i-RooBO Network Forum、一般社団法人映像情報メディア学会、一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム、一般社団法人人工知能学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人日本医療機器産業連合会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本建設機械施工協会、一般社団法人日本義肢装具学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本建設機械工業会、一般社団法人日本航空宇宙学会、一般社団法人日本コンピュータ外科学会、一般社団法人日本産業車両協会、一般社団法人日本食品機械工業会、一般社団法人日本人間工学会、一般社団法人日本農業機械化協会、一般社団法人日本農業機械工業会、一般社団法人日本包装機械工業会、一般社団法人日本UAS産業振興協議会、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会、一般社団法人日本ロボット学会、一般社団法人日本ロボット外科学会、一般社団法人日本ロボット工業会、FA・ロボットシステムインテグレータ協会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人林業機械化協会、一般社団法人日本生活支援工学会、一般社団法人日本計量機器工業連合会、一般社団法人日本工作機械工業会、一般社団法人日本産業機械工業会、一般社団法人日本自動車工業会、一般社団法人日本電機工業会、一般社団法人日本電気制御機器工業会、一般社団法人日本食品工学会、一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会、一般社団法人日本物流システム機器協会、一般財団法人橋梁調査会、一般財団法人先端建設技術センター、社会福祉法人全国社会福祉協議会、特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構、建設無人化施工協会、農業食料工学会、ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会、サービス学会、サービス産業生産性協議会、特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合、消防庁消防大学校消防研究センター、日本介護用入浴機器工業会

(68 団体。順不同)

4. 募集対象

おおむね3年以内に日本国内で活躍した又は取り組まれたすべてのロボット等のうち、以下の各部門及び分野に属し、かつ有識者で構成される審査を目的とした委員会において当該ロボット等を十分に審査する機会を与え得るものを募集対象とします。

ただし、中小システムインテグレーターによるロボットを中核としたシステム構築例は、おおむね5年以内に運用されたものとします。

なお、本制度においては、「ロボット」を「センサ、知能・制御系、駆動系の3つの技術要素を有する、知能化した機械システム又はそれに類するもの」と広く定義しますが、本表彰事業の募集対象はロボット本体に限らず、ロボットに関連するビジネス・社会実装、ロボット応用システム、要素技術、高度ICT基盤技術、研究開発及び人材育成部門とします。

[参考]

「ロボット大賞」は、社会に役立っているロボットを表彰するという観点から、実績のあるものを主な対象としますが、研究開発段階にあるものでも、将来の市場創出への貢献度や期待度が高いなど今後社会に貢献することが期待されるロボットであれば表彰の対象としています。

5. 応募資格者

応募対象となるロボット等を自薦又は他薦できる個人もしくは企業、大学等、研究機関、団体を応募資格者とします。また、グループでの応募も可能です。

6. 部門・分野

本事業において募集するロボット等の部門・分野は、以下のとおりです。

<部門>

(A) ビジネス・社会実装部門

ロボットに関連するビジネスモデル又は各分野における社会実装に向けた取組

(B) ロボット応用システム部門

実用に供しているロボット技術を応用したシステム又はシステムインテグレーション

(C) ロボット部門

実用に供しているロボット本体

(D) 要素技術部門

ロボットの一部を構成する部品、材料、その他のロボットの要素技術

(E) 高度ICT基盤技術部門

ロボット利活用を支える情報通信および情報処理などの高度ICT基盤技術（IoT、AI、5Gなどを含む）

(F) 研究開発部門

ロボットに関連する特に将来性のある研究開発の成果

(G) 人材育成部門

ロボット分野における人材を育成するための取組又は教材等

<分野>

① ものづくり分野

機械、部品、素材など製品となる物品を製造するのに係る分野

② サービス分野

公共施設・工場・事務所・店舗・家庭などで警備、掃除、配膳などのサービスを提供する

のに係る分野

③ ICT 利活用分野

ロボット利活用が関わる地域課題解決や ICT 利活用に係る分野

④ 介護・医療・健康分野

介護、医療、障害福祉、健康などにおけるロボットの利活用推進に係る分野

⑤ 社会インフラ・災害対応・消防分野

社会インフラの建設・メンテナンス、災害現場の調査・応急復旧、消防などに係る分野

⑥ 農林水産業・食品産業分野

農林水産業、食品産業分野における生産性向上、省力化などに係る分野

※部門・分野選択の際の注意点

- ・ 応募者は、ロボット等の用途などにより、エントリーする部門と分野を選んでください。
- ・ なお、共催者等の判断により、エントリーする部門・分野を変更させていただくこともございますので、ご了承ください(この場合は応募者各位と相談をさせていただきます)。
- ・ 中小企業・ベンチャー(*)の場合は、応募時にその旨記入登録してください。

*「中小企業・ベンチャー」とは

中小企業基本法第2条第1項の規定に基づく中小企業者(下記 i ~ iv を参照)をいいます。ただし、大企業の子会社等(発行株式総数若しくは出資金額の1/2以上が同一の大企業、又は、発行株式総数若しくは出資金額の2/3以上が複数の大企業の所有に属している法人)は含みません。

i. 製造業・建設業・運輸業その他の業種:

「資本金3億円以下」又は「常時雇用する従業員300人以下」

ii. 卸売業:「資本金1億円以下」又は「常時雇用する従業員100人以下」

iii. サービス業:「資本金5000万円以下」又は「常時雇用する従業員100人以下」

iv. 小売業:「資本金5000万円以下」又は「常時雇用する従業員50人以下」

7. 応募方法

応募エントリー⇒応募書類提出の流れになります。

7.1 応募エントリー

- ① 応募エントリー期間は 2021 年 12 月 1 日(水)～2022 年 6 月 3 日(金)です。
- ② 公式ウェブページから「応募エントリー」を行ってください。

応募エントリーへの自動返信メールで「エントリー番号」が送信されます。

7. 2応募書類提出

- ①応募書類提出期間は2022年4月11日(月)～2022年6月3日(金)です。※当日必着
- ②公式ウェブページから、「応募用紙」をダウンロードし、前項「エントリー番号」を記載の上、応募用紙へ必要事項のご記入をお願いします。



- ③ロボットの動作が確認できる「映像データ」(1分以内を厳守ください)をご用意ください。なお、要素部品・技術やシステム等の案件で動画の用意が難しい場合のみ、製品等の概要が記載された資料(パンフレットなど。任意)を添付いただいても構いません。



- ④上記②及び③(映像データまたは資料)を、CD-R、DVD-R、BD-RまたはUSBのいずれかの1媒体に収録し、下記事務局まで郵送してください。※紙媒体での送付は不要です。

- ・ 郵送した資料の到着をもって、応募の完了といたします。
- ・ なお、提出された応募資料・保存媒体は返却いたしませんので、ご了承ください。

公式ウェブページURL: <http://www.robotaward.jp>

E-Mail: info@robotaward.jp

《 郵送先 》

〒103-8548

東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル3階

「第10回 ロボット大賞」事務局 宛

TEL.03-5644-7298

8. 郵送資料

公式ウェブページにて応募エントリーした後、以下の資料をCD-R、DVD-R、BD-RまたはUSBのいずれかの1媒体に収録し、郵送にて必ず提出してください。

- (1) 応募用紙 (必須)
- (2) ロボット等の動作が確認できる1分以内の動画映像(1分以内を厳守ください)
 - ・mp4(またはMPEG、WMV)の形式で、Microsoft Windowsで再生可能なファイル
 - ・ロボットの場合は必須です。動作確認が主な目的ですので、確認可能な映像になれば問題ありません。また要素技術については、可能な限りご送付下さい。なお、ソフト

ウェアについては、実際に稼動することを示す動画であることに加え、再現性を示すものであればより望ましいと考えます。

- ・動画映像が1分を超過している場合、審査資料としては見做しませんのでご注意ください。

(3) その他説明資料（動画の用意が難しい場合のみご提出ください）

※(1)、(2)に関しては、必ず電子データとして1枚のCD-R、DVD-R、BD-RまたはUSBのいずれかの1媒体に収録して郵送してください。

※(3)の資料のうち、電子データ化可能なものに関しては(1)、(2)と同じCD-R、DVD-R、BD-RまたはUSBのいずれかの1媒体に収録してください。

※ 郵送していただくCD-R、DVD-R、BD-R、USBのラベル面に、必ずエンタリー番号とロボット名称を明記してください。

※ 郵送していただくCD-R、DVD-R、BD-R、USBは、Microsoft Windowsで読み込み可能なフォーマットとしてください。

※ 電子ファイルには、以下のルールでファイル名(半角英数)を付けてください。

(1)(2)の電子ファイル

エンタリー番号.拡張子(xls、jpg等)

(3)の電子ファイル

エンタリー番号_通し番号(1、2、3…) .拡張子

9. 表彰位

(1)大臣賞

全応募のうちそれぞれの大臣が行う政策上の観点から、最も優秀であると認められるロボット等に対して各大臣賞を授与します。

- ① 経済産業大臣賞(全部門、全分野を授賞対象とします)
- ② 総務大臣賞(主に、高度ICT基盤技術部門、ICT利活用分野および消防分野を授賞対象対象とします)
- ③ 文部科学大臣賞(主に、研究開発部門、人材育成部門を授賞対象とします)
- ④ 厚生労働大臣賞(主に、介護・医療・健康分野を授賞対象とします)
- ⑤ 農林水産大臣賞(主に、農林水産業・食品産業分野を授賞対象とします)
- ⑥ 国土交通大臣賞(主に、社会インフラ・災害対応分野を対象とします)

(注)

厚生労働大臣賞は以下に該当する医療機器には授与されませんのでご注意ください。

- イ 薬事承認・認証を受けていない機器
- ロ 保険収載を希望する機器で、当該手続きが済んでいない機器
- ハ 医療現場での利用実績が一定期間を経過していない機器

(2) 中小・ベンチャー企業賞(中小企業庁長官賞)

中小企業及びベンチャーからの応募のうち特に優秀であると認められるロボット等に対して中小企業庁長官賞を授与します。

(全部門、全分野を授賞対象とします)

(3) 日本機械工業連合会会長賞

ロボット産業の振興において特に優れたロボット等に対して日本機械工業連合会会長賞を授与します。

(全部門、全分野を授賞対象とします)

(4) 優秀賞(〇〇部門)・優秀賞(△△分野)

各部門・各分野において特に優秀であると認められるロボット等に対して優秀賞を授与します。

(全部門、全分野を授賞対象とします)

(5) 審査員特別賞

上記の他に、表彰に値するロボット等に審査員特別賞を授与することがあります。

(全部門、全分野を授賞対象とします)

10. 審査の観点

第10回ロボット大賞の審査においては、以下に掲げる部門毎の観点について審査を行います。

(A) ビジネス・社会実装部門

① 社会的ニーズ

それぞれの分野におけるロボットの活用による、新たなビジネスやサービスの創出、生産性の向上や労働環境の改善等の社会的課題への対応、新たなビジネスモデルやそのアイデア等によるマーケットやニーズの発掘等の、社会的ニーズの観点から評価する。

② 先進性・独自性

それぞれの分野におけるロボットの活用、ロボットに関連するビジネスとしての新規性や、活用されるロボットやそのシステムインテグレーションの技術的な先進性・独自性等の観点から評価する。

③ ユーザー視点

それぞれの分野におけるロボットの活用によって、その利用者が受ける利益や効用等の、ユーザーとしての視点から評価する。

④ その他

1~3以外のアピールポイントとして、応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

(B) ロボット応用システム部門

① 社会的ニーズ

それぞれの分野におけるロボット応用システムのメリット及びニーズの大きさ、これまでの導入・販売実績や将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。

② 先進性・独自性

それぞれの分野におけるロボット応用システムの新規性や、システムインテグレーションの技術的な先進性・独自性等の観点から評価する。

③ ユーザー視点

ロボット応用システムの実用性、利便性、デザイン、経済性(導入・維持コスト等)、ユーザビリティ等の、それぞれの分野におけるユーザーとしての視点から評価する。

④ その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

(C)ロボット部門

① 社会的ニーズ

それぞれの分野におけるロボット活用のメリット及びニーズの大きさ、これまでの導入・販売実績や将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。

② 先進性・独自性

ロボットの機能や性能(速さ、精度、安全性、動作安定性、動作環境の汎用性や操作性等)又はそれらを実現する技術の、先進性や独自性の観点から評価する。

③ ユーザー視点

ロボットの実用性、利便性、デザイン、経済性(導入・維持コスト等)、共通規格への対応、ユーザビリティ等の、それぞれの分野におけるユーザーとしての視点から評価する。

④ その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

(D)要素技術部門

① 社会的ニーズ

それぞれの分野において活用されるロボットへの実装のメリット及びニーズの大きさ、これまでの実装・販売実績や将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。

② 先進性・独自性

ロボットの機能や性能(ロボットの速さ、精度、安全性、動作安定性、動作環境の汎用性や操作性等)を実現する要素技術としての先進性や独自性の観点から評価する。

③ ユーザー視点

ロボットの実用性、利便性、デザイン、経済性(導入・維持コスト等)等の向上への寄与や、ロボットに実装するときの容易性や共通規格への対応等の、ユーザーとしての視点から評価する。

④ その他

①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

(E)高度ICT基盤技術部門

① 社会的ニーズ

それぞれの分野において活用されるロボット・ロボット応用システム等に実装される情報処理技術・情報通信技術であり、実装のメリット及びニーズの大きさ、これまでの実装・販売実績や将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。

る。

- ② 先進性・独自性
ロボット・ロボット応用システム等を実装され、その機能や性能を実現する高度ICT基盤技術としての先進性や独自性の観点から評価する。
- ③ ユーザー視点
高度ICT基盤技術の実用性、利便性、経済性(導入・維持コスト等)、ユーザビリティ等の、それぞれの分野におけるユーザーとしての観点から評価する。
- ④ その他
①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

(F) 研究開発部門

- ① 社会的ニーズ
研究開発の成果が、ロボットやその要素技術として実用化されることによる、それぞれの分野における新たなビジネスやサービスの創出、生産性の向上や労働環境の改善等の社会的課題への対応、将来的な市場創出の期待値等の、社会的ニーズの観点から評価する。
- ② 先進性・独自性
研究開発の成果としての先進性、独自性の観点から評価する。
- ③ ユーザー視点
研究開発の成果として、ロボットの実用性、利便性、デザイン、経済性(導入・維持コスト等)等の向上への寄与や、要素技術としてロボットに実装するときの容易性や共通規格への対応等への寄与等の、ユーザーとしての観点から評価する。
- ④ その他
①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

(G) 人材育成部門

- ① 社会的ニーズ
それぞれの分野におけるロボットの活用や、ロボットに関連する新たなビジネスやサービスの創出、ロボットやその要素技術の研究開発を担う人材等のロボット分野において活躍する人材の育成への貢献の観点から評価する。
- ② 先進性・独自性
人材育成の方法としての先進性、独自性の観点から評価する。
- ③ ユーザー視点
ロボット分野において活躍したい人材にとって、必要な知識や経験、技能等を効果的かつ効率的に習得できるしくみとなっているか等の、ユーザーとしての観点から評価する。
- ④ その他
①～③以外のアピールポイントとして応募者が書類に記載した事項(実績あるいは期待される社会的インパクト等)を評価する。

11. 審査の方法

以下のとおり、有識者で構成される委員会による選考を経て、受賞者の決定を行います。

(1) 一次審査(書類審査)

書類と映像による審査を行い、二次審査の対象とするものを選出します。

(2) 二次審査(現地調査及びプレゼンテーションに基づく審査)

一次審査を通過したロボット等について、「現地調査」を行うとともに「プレゼンテーション及び審査員との質疑応答」を行い、それらの内容を踏まえ、各賞の表彰対象とすべきロボット等を選択します。

※状況により現地調査を行わない場合もあります。

(注1) 審査の経緯や内容は非公開とします。お問い合わせいただいても一切お応えできませんので予めご了承ください。

(注2) 過去に受賞したものの再応募である場合は、前回受賞からの進展分が審査の対象となります。

12. 受賞者の発表

各賞の受賞者には、受賞の旨を直接連絡いたします。あわせて、公式ウェブサイト・新聞等に掲載します。

13. 表彰式

- ・2022年10月19日(水)に、東京ビッグサイトにおいて、各賞の表彰を行います。受賞者には表彰状と盾が授与されます。表彰式等の詳細は追って公表します。
- ・また、受賞者及び受賞したロボット等は、共催者が発行する広報物等への掲載、各種新聞・TVなどマスコミへの発表を通じて広報されます。

14. 合同展示

表彰式に引き続いて、表彰式当日を含む3日間(2022年10月19日～21日)、同会場の東京ビッグサイトにて受賞ロボット合同展示及びデモンストレーションを行いますので、ご協力をお願いいたします。

なお、実機によるデモンストレーションが不可能な場合に限り映像等による代替も可能とします。展示会場では、各専用スペースにてロボット本体や部品・ソフトウェア等を展示の上、適時、動作を伴うデモンストレーションを行っていただきます。

※受賞ロボット等の輸送費はご負担いただきます。

15. 全体スケジュール予定

2021年12月1日(水)	応募エントリー開始
2022年4月11日(月)	応募書類受付開始
6月3日(金)	応募書類受付締切 ※応募書類は当日必着
6月上旬～7月中旬	一次審査(書類審査)

7月下旬～8月下旬	二次審査(現地調査及びプレゼンテーションに基づく審査)
9月下旬	大臣賞他各賞の決定
10月19日(水)	表彰式、受賞ロボット合同展示(展示は19日～21日)
	会場: 東京ビッグサイト
	(Japan Robot Week 2022 会場内で行われます。)

16. 問い合わせ窓口

「第10回ロボット大賞」事務局

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル3階

E-Mail: info@robotaward.jp

※ お問い合わせは電子メールでお願いいたします。

※ また、受賞者発表前の候補に関する問い合わせや、審査状況に関するお問い合わせには一切お応えできませんので、予めご了承ください。